

環境レポート

2006 年度

桃山ポリ株式会社

ごあいさつ

21 世紀は、環境の世紀といわれています。20 世紀に花を開いた科学文明の発達によって人類は生活上のさまざまな利便さを享受してまいりました。反面それらの結果、大量生産・大量消費につながる大量廃棄などによる負の遺産が大きく我々の目前にあらわれてきています。

われわれは先人として何としてでもこの負の遺産を子孫に引き継ぐようなことをしてはいけません。

当社は、事業を進める中で少しでも環境面の負荷を減らしてクリーンな地球を子孫に残すべく努力をしていくことを経営の基本的な重要事項として、たとえ効果些少であっても日夜努力をしております。

ここに私どもの本年度の環境保全の結果をご報告してみなさまのご批判をおおぎたいと存じます。

2007 年 4 月
桃山ポリ株式会社
代表取締役社長
今西 潔

桃山ポリ株式会社 環境宣言

基本理念

桃山ポリ株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方針

桃山ポリ株式会社は各種包装資材の製造・卸し・販売に係わる全ての活動、製品及びサービス環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進し地球環境との調和を目指します。

- 1 . 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
- 2 . 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
- 3 . 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 電力使用量の削減
 - (2) アイドリングストップ等ガソリン使用量の削減
 - (3) 事務用紙使用量の削減
 - (4) グリーン購入の推進
 - (5) 当社周辺の清掃等の啓発活動
- 4 . 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知するとともに社外へも公表します。
- 5 . 京のアジェンダ21フォーラムのパートナーシップの基づく地域の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2006年 5月 1日

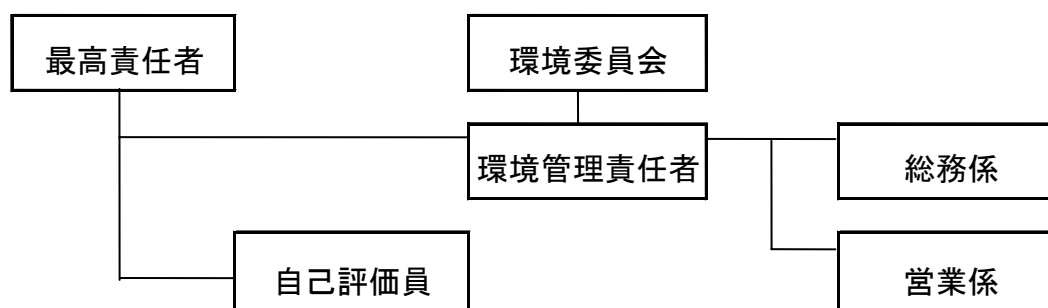
桃山ポリ株式会社

取締役社長 今西 潔

会社概要

会社名 桃山ポリ株式会社
所在地 京都府京都市伏見区桃山南大島町 67 - 43
事業内容 各種包装資材製造、卸し、販売
代表取締役 今西 潔
資本金 10,000,000円
従業員数 6名(内 パート社員2名)
敷地面積 89.15平方メートル
延床面積 119.79平方メートル
沿革 1971年5月 設立
1971年5月30日 操業
2006年9月 1日 KESステップ2 認証取得

・環境活動の取り組み体制



・ 認証取得内容

K E S 登録証

登録日：2006年9月1日

登録番号：KES2-0255

・ 環境活動の内容と実績

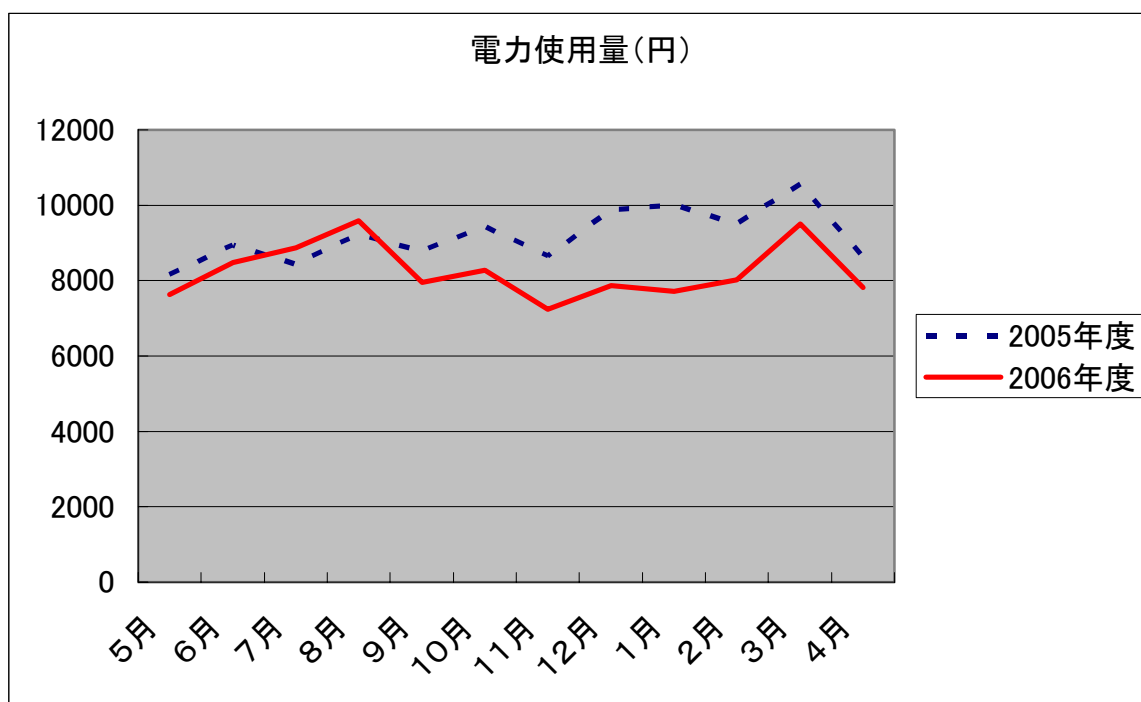
2006年度(5月～4月)環境改善活動実績

環境改善目標	具体的施策	目標値	実績値	達成率	評価
1 省エネルギー化					
電力使用量の4%削減(前年比) (単位:円)	1.1エアコン温度・運転の適正管理 1.2休憩時間の消灯	105,790円	98,957円	107%	A
2 省エネルギー化					
ガソリン使用量の1%削減(前年比) (単位:l)	2.1アイドリングストップ 2.2エコドライブの実施	4091.07l	3964.65l	103%	A
3 省資源化					
事務用紙使用量の10%削減(前年比) (単位:枚)	3.1両面コピーの活用 3.2裏面の再利用 3.3パソコン・電子メールの活用	5,697枚	3,570枚	160%	A
4 グリーン購入					
事務用品エコロジー製品購入60%(購入品目数) (単位:%)	4.1エコ商品カタログの活用 4.2エコ商品への切り替えの推進	60%	60%	100%	A
5 啓発活動					
当社周辺の清掃(毎月1回) (単位:回)	5.1当社周辺の清掃	12回	12回	100%	A

評価記号 A:良好(100%以上) B:やや不足(90~100%) C:不適合(90%以下)

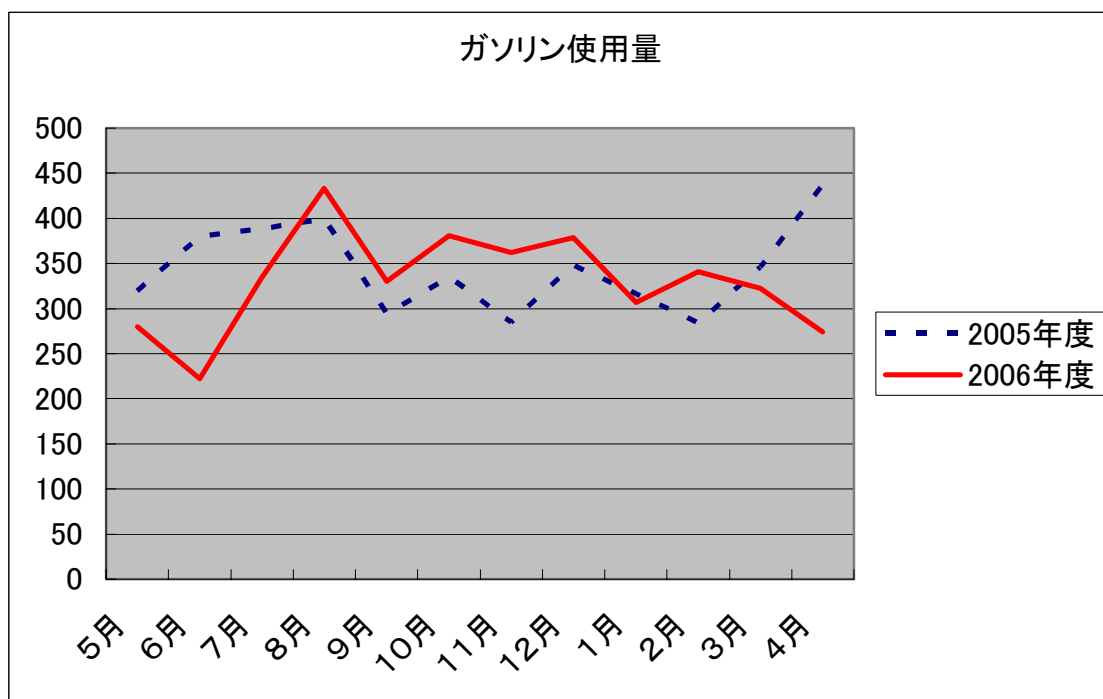
・ 具体的環境活動のご紹介

電力の削減では、照明や空調設備について休憩時間等こまめに消灯や運転温度の基準を作り、確認の為の担当者を決めて実行し確認記録を残して環境管理責任者が定期的にチェックをした。
最初のうちは実行がばらついたが自然に癖がついて各人が意識して管理するようになっていった。



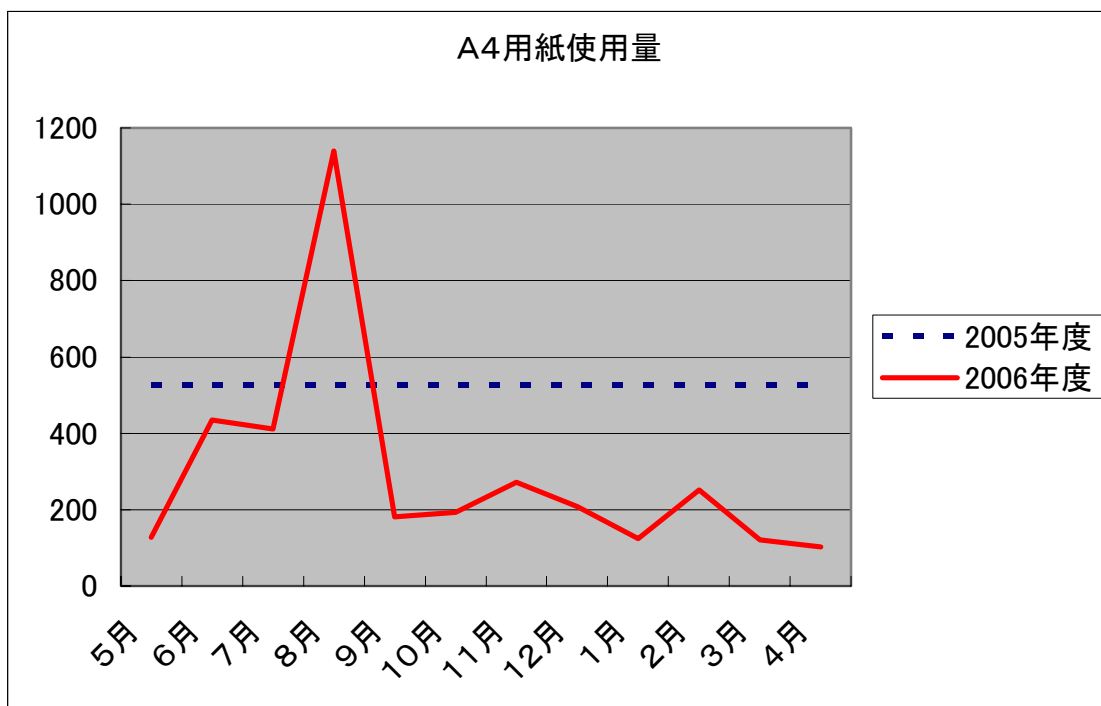
省エネルギー化(電力)前年度対比

ガソリン使用量の削減では、走行距離を給油時に確認し運転日報を記録し環境管理責任者が定期的にチェックをした。
アイドリングストップやエコドライブの実施を行ったが慣れるまでばらついたが今では各人が意識して運転出来るようになっている。



省エネルギー化（ガソリン）前年度対比

事務用紙削減については、社内文書は全て裏紙利用と全社的にコピーの両面印刷化の実行、また、得意先に対して可能な限り電子メールを活用して成果を挙げている。



省資源化（事務用紙）前年度対比

事務用品エコロジー商品購入については使用していた事務用品を順次エコロジー製品に切り替えていった。また、具体的にどのようなエコロジー商品があるか、事務用品購入時にカタログ等で調べるようになっていった。

当社周辺の清掃については会社行事として毎月第3土曜日に定着してきた。

. 環境関連法規の順守状況

当社の事業活動に制約を受ける環境関連法規制等については、順守状況を定期的に確認し、関係する機関や関係者からの指摘・訴訟等はない。

. 2006年度（5月～4月）活動の評価と今後の課題

電力削減、ガソリン使用量削減等細かい基準を作成して徹底して管理した結果、前述の如く大きな削減成果を得た。最高責任者の提案により電力削減の為、社内の照明器具をインバーター照明に切り替え、室内も太陽光を有効利用できるよう改装することが出来た。

今後の課題としては業務拡大に伴い営業車での走行距離が伸びてきた為、ガソリン燃費向上に取り組み適正な管理を検討し実施していきたい。

これからも継続的改善を行い創意工夫で更なる挑戦をする。

尚、次年度テーマとしては極力本業に係わる内容のものを取り上げていくことを意識する

・ 第三者の証明・意見

1. 審査機関の証明

KES 環境マネジメントシステムスタンダード(ステップ2)の初回審査(2006年8月17~18日)及び第1回確認審査(2007年7月31日)を通じて、環境レポートに記載されている環境への取り組み活動が記載通りに実行されていることを確認しております。

活動に適用されている KES(ステップ2)の要求事項をすべて満足しており、環境レポートに記載されている活動状況以外の項目、即ち、環境影響評価・文書管理・教育訓練・緊急事態に対する対応・不適合に対する処置・自己評価・最高責任者の評価などがしっかりと運用されていることを確認しました。

平成 19 年 9 月 13 日

特定非営利活動法人 KES 環境機構

主幹審査員 長野 哲朗

2. コミュニケーション (利害関係者の感想)

環境についての研修を受けられたリーダーを中心に全社員への意識の共有化を続けられた事で大きく改善されたと思います。特に身近な省エネルギーの推進(空調設備使用改善・照明改善等)、資源の有効利用(裏紙利用等)などは環境という意識を皆さんが少し高める事で今後もますます大きな改善をされる事が期待されます。

また弊社においても環境を配慮した商品提案で環境に優しい企業活動と一緒に考えていければと思います。

宇陀化成工業株式会社 専務取締役 栗林浩二